



NAPA、NTT系と造船設計・製造で協業

NTT系と造船設計・製造で協業

NAPA、設計と生産システムを連携

NAPAとNTTデータエンジニアリングシステムズ(NDES)は19日、両社の造船設計・製造支援システムの連携や、エンジニアリングサービスの事業化に向けた協業で合意したと発表した。両社の基本設計システムと現場の生産検討システムを連携し、設計の初期段階から現場の効率を考慮した生産計画が練れるため、生産性の向上が期待できる。

両社は基本設計を支援するNAPAのシステム「NAPA Steel」と生産検討を支援するNDESのシステム「Beagle」の3次元データ連携を可能とするインターフェースの開発・商品化に取り組む。インターフェースの実現により、「NAPA Steel」の3次元設計データが「Beagle」を使った生産計画の早期検討にシームレスに有効利用できるようになり、造船の設計・製造のトータルコスト低減に貢献する。

これまでも生産設計の3D-CADで作成された3Dデータを使えばBeagleによる生産検討はできたが、今回の協業で設計初期段階からの生産検討が可能になる。初期段階から製造現場での生産性を考慮した構造の設計や組立手順・計画を折り込むことで、構造設計の完成度を前倒しし、生産現場での生産性向上を図れる。

また、NDESは「NAPA Steel」を利用した設計・解析支援などのエンジニアリングサービスの事業化に取り組む。事業化に向けた検討・準備の実施にあたり、NAPAは技術サポートなどで支援する。

◀ 記事一覧に戻る

🖨️ この記事を印刷する